

平成 26 年度 京都府立宮津高等学校伊根分校 学校経営計画 (実施段階)

平成 27 年 3 月末日

学校経営方針 (中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
<p>智力、人間性、体力が調和した生徒の育成をめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒一人一人が安心して楽しく過ごせるクラス・学校作りを行う。 2 すべての生徒に基礎学力を定着させるため、授業のユニバーサルデザイン化を推進する。 3 関係専門機関との連携を強化し、多様な生徒に応じた支援を行う。 4 生徒一人一人の能力・適性を把握し、系統的な進路指導を行い希望進路の実現を図る。 5 人間的な触れあいを密にしたきめ細かな指導により、心豊かな人間性を育てる。 	<p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 規律の確保とマナーの向上について、全教職員が目線をそろえた指導ができた。 2 教育支援会議を適切に開催し、課題のある生徒について共通理解を深め、生徒指導に活かすことができた。 3 学校行事や部活動などを通して、生徒の自己有用感を高める取り組みが充実してきた。 <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教育支援会議や部長会を中心として、生徒の課題を早期に把握し、支援体制を構築する。 2 新教育課程の進行管理を行いながら、生徒が生き生きとした学校生活を送りながら自己有用感を高める教育活動を創造する。 3 保護者や関係専門機関(障害者自立支援センター、スーパーサポートセンター、ハローワーク、特別支援学校等)との連携を深め、生徒の自立支援を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業規律が確保され、お互いを大切にするクラス・学校作りを行う。 2 それぞれの生徒の課題を把握したうえで、教育支援会議を中心として有効な支援体制を構築する。 3 多様な学習歴をもつ生徒に、基礎学力を定着させるため、授業のユニバーサルデザイン化を推進する。 4 保護者や関係機関(障害者自立支援センター、スーパーサポートセンター、ハローワーク、特別支援学校等)との連携を深め、生徒の自立支援を図る。 5 様々な体験活動・部活動・ボランティア活動を通して、生徒の自己有用感を高め生き生きとした学校生活を送る生徒を育成する。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題								
組織・運営	学校の教育力を向上させる。	<p>評価基準の明確化、授業のユニバーサルデザイン化を図り多様な生徒に対するわかりやすい授業を目指す。</p> <p>[授業アンケートにおける授業に対する満足度]</p> <table border="1" data-bbox="936 1347 1592 1428"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>81%以上</td> <td>80~76</td> <td>75~60</td> <td>60未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	81%以上	80~76	75~60	60未満	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートは、95.6%であった。落ち着いた学校生活を反映した数字と考える。 ・研修会については、現
A	B	C	D									
81%以上	80~76	75~60	60未満									

	教員の資質能力向上のための取組みを行う。	特別支援教育の視点から、研修会を実施する。 <table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>5回以上</td><td>4～3回</td><td></td><td>3回未満</td></tr> </table>	A	B	C	D	5回以上	4～3回		3回未満	B	A 在3回の実施である。 ・中学校への広報は、「舟屋」を定期的に持って行き情報交換している。今年度8回以上中学校を訪問し、情報交換に努めた。
A	B	C	D									
5回以上	4～3回		3回未満									
	中学校への広報活動を計画的に行う。	伊根分校の取組みを中学校職員に広報する。 <table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>8回以上</td><td>7～5回</td><td></td><td>5回未満</td></tr> </table>	A	B	C	D	8回以上	7～5回		5回未満	A	
A	B	C	D									
8回以上	7～5回		5回未満									
教務部	わかる授業、役に立つ授業、楽しい授業を計画的かつ段階的に展開する。	ユニバーサルデザインを念頭に、授業法の改善を図りつつ、教材の研究に努める。定期テストの平均点を40～60点台にする。 <table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>80%以上</td><td>79～60</td><td>59～40</td><td>40未満</td></tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	79～60	59～40	40未満	A	B ・各教科でわかる授業を目標に分かり易い表現や問題形式の工夫等でユニバーサルデザイン化を実践し、平均点も50点台と目標を達成している。 ・2回の追認指導は指導率・受験率共に100%で、20科目中16科目に合格の判定が得られ、生徒の頑張りが評価につながった。 ・新規のボランティア活動の提案は次年度以降の課題にしたい。
	A	B	C	D								
	80%以上	79～60	59～40	40未満								
追認や補充指導を充実させる。	追認補充指導の時間を確保し、必要な学力を身につけさせる機会とする。追認・補充指導の出席率を100%を目指す。 <table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>95%以上</td><td>94～90</td><td>89～85</td><td>85未満</td></tr> </table>	A	B	C	D	95%以上	94～90	89～85	85未満	A		
A	B	C	D									
95%以上	94～90	89～85	85未満									
新しいボランティア活動を提案し、生き生きとした学校生活を送る生徒を育てる。	伊根分校生徒に活動の場を与え、地域にも貢献できる取組みを探る。 <table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>3回以上</td><td>2</td><td>1</td><td>0</td></tr> </table>	A	B	C	D	3回以上	2	1	0	D		
A	B	C	D									
3回以上	2	1	0									
生徒指導部	生徒が公衆道徳や校則を守り、自立的に生活できるようにする。	全校集会を定期的実施してルールやマナーの向上を目指す。 [授業評価アンケートにおける生徒指導に対する満足度] <table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> </table>	A	B	C	D	A	・全校集会実施率 9回実施(100%) ・マナー向上率 向上した82%				
A	B	C	D									

		76%以上	75～70	69～60	60未満				
	部活動を活発化させる。	クラブ員の増加と活動内容の向上を目指す。 [授業評価アンケートにおけるクラブ活動に対する満足度]						B	・クラブ加入率 100%（前年度41.7%） ・クラブ満足度 満足している65% ・クラブの活動内容に工夫が必要である。
		A	B	C	D			C	
		76%以上	75～70	69～60	69～60				
進路指導部	次年度以降の勤労体験学習につながる取り組みを強化する。	勤労体験学習につながるアルバイト就労率を高める。						B	・一度でもアルバイトができた生徒は77%であった。ただし、継続してできているのは54%にとどまる。 ・6人に体験を進めることができた。 ・企業等見学で6か所、一般の企業訪問で12社を訪れた。
		A	B	C	D			C	
		90%以上	89～70	69～50	50未満				
		勤労体験学習につながるインターンシップ体験を進める。							
		A	B	C	D				
		10回以上	9～8	7～6	6未満				
		求人開拓のための職場訪問に積極的に取り組む。						B	
		A	B	C	D				
		20社以上	19～15	14～10	10未満				
保健部	健康安全に関する啓発活動を、年間を通じて行う。	保健だよりの発行により、身近な健康問題の啓発を年間通じて行う。[保健だよりの年間発行回数]						A	保健だよりは、19回発行。 迅速、丁寧な内容である。 安全点検は、4回実施した。日常的に点検し、出来るところから改善した。
	A	B	C	D			B		
		12回以上	11～9	8～6	6未満				
	校内美化と学習環境の安全を図る。	年間を通じ、安全点検を行う。 [安全点検の年間回数]						D	
		A	B	C	D				
		10回以上	9～8	7～6	5～4				
第1学年	社会規範を意識し、挨拶・話し方・時間厳守等の習慣を身に付ける。	基本的な生活習慣を定着させ、特に挨拶がしっかりとできるように指導する。							評価 83.3% 元気よく挨拶をする

		<p>[アンケートによる自己達成度がAおよびBの人数で評価する]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>78%以上</td> <td>77～44</td> <td>43～33</td> <td>32未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	78%以上	77～44	43～33	32未満	A	<p>ことができた。早寝早起を心がけることができた。</p>				
A	B	C	D													
78%以上	77～44	43～33	32未満													
第2学年	<p>基礎学力の定着を図るとともに、集団の一員としての自覚を高める。</p>	<p>学校の規則やクラス内のルールを守る意識を高めるとともに、安心して学習ができるような環境を作れるように、関係分掌と連携を図り指導を行う。 [授業アンケートの項目8（授業では、人の迷惑にならないように気を付ける）におけるA+Bの割合]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>85%以上</td> <td>84～75</td> <td>74～65</td> <td>65未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	85%以上	84～75	74～65	65未満	A	<p>アンケート項目8 A：45.5% B：45.5% C：9.1% D：0.0% A+Bの割合 90.9%</p>				
A	B	C	D													
85%以上	84～75	74～65	65未満													
第3学年	<p>希望進路の実現に向けて指導する。</p>	<p>就職希望者は早期に勤労体験学習先を決定し、進路希望者は希望進路実現に向けた取り組みを早期に始める。 保護者との懇談、生徒との面談を密に行う。 [3年9名にアルバイトを体験させ勤労体験学習先を確保する。]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>9人</td> <td>8～7</td> <td>6～5</td> <td>5未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	9人	8～7	6～5	5未満	B	<p>・進路希望調査をとり希望進路に向けた面談を事あるごとに何回も行った。アルバイトは、全員が経験した。(A=9人)経験を活かし勤労体験学習先へ結びつけた。(B=7人)</p>				
A	B	C	D													
9人	8～7	6～5	5未満													
国語科	<p>漢字の力を通じ、読書力を高め、広く国語の力を養う。</p>	<p>授業内で漢字テストを積極的に行い、生徒の学習意欲を高める。[実施回数で評価する]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>20回以上</td> <td>19～15</td> <td>14～10</td> <td>10未満</td> </tr> </table> <p>小説や詩歌、古典の文章の朗読発表の場を設け、生徒に聞く人に「伝える」ことの大切さを意識させる。 [実施回数で評価する]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>	A	B	C	D	20回以上	19～15	14～10	10未満	A	B	C	D	C	<p>・1月末時点で1年21回、2年10回、3年6回実施。教科書本文を出題範囲とする漢字テストは、教材・学年による差が大きく出てしまった。 次年度は別途、検定を意識した小テストも実施したい。 ・1</p>
A	B	C	D													
20回以上	19～15	14～10	10未満													
A	B	C	D													
			B													

		<table border="1"> <tr> <td>10回以上</td> <td>9～6</td> <td>5～4</td> <td>4未満</td> </tr> </table>	10回以上	9～6	5～4	4未満			<p>年国語総合で古典7作品の冒頭部分、2年国語総合の授業において「平家物語」の朗読を行った。</p> <p>次年度は、幅広い作品を通じ、音読と朗読の違いを意識できるよう指導したい。</p>				
10回以上	9～6	5～4	4未満										
地歴科	<p>地理・歴史・公民の各分野を一体的なものとして学ばせ、公民としての自覚や社会への関心、勤労意欲旺盛な人材の育成に努める。</p>	<p>列挙できる外国名の数を増やす。 [全生徒の平均数で評価する]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>50国以上</td> <td>49～40</td> <td>39～30</td> <td>30未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	50国以上	49～40	39～30	30未満	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・外国の名は平均42.2か国答えることができた。 ・歴史上の人物は40.2人答えた。 ・昨年度はどちらも20程度であったことを考えると、一定の改善が見られたと思う。
		A	B	C	D								
50国以上	49～40	39～30	30未満										
<p>列挙できる歴史上の人物の数を増やす。 [全生徒の平均数で評価する]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>40人以上</td> <td>39～30</td> <td>29～20</td> <td>20未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	40人以上	39～30	29～20	20未満	A				
A	B	C	D										
40人以上	39～30	29～20	20未満										
数学科	<p>生徒個々の学力を向上させる。</p>	<p>授業内で、小テストを行い、生徒個々の学力に応じた内容で実施する。テスト直しを提出をさせる。 [テスト直し提出割合]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>100%</td> <td>99～90</td> <td>89～80</td> <td>79～70</td> </tr> </table>	A	B	C	D	100%	99～90	89～80	79～70	B		<p>小テストを活用し、学習の習慣化が定着してきている。</p> <p>進級に向け個別指導を行い、不認定生徒を減らした。</p>
A	B	C	D										
100%	99～90	89～80	79～70										
理科	<p>自然の物事・現象に対する興味や関心を喚起し、科学を学ぶ意義や楽しさを実感させる。</p>	<p>科学に対する意欲・関心をはかるため、授業で配布するプリント課題の取り組み状況を確認する。 [年間を通して取り組んでいない回数で評価する]</p>			<p>平均回数 3.2 回 授業中で取り組む課</p>								

		<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>1回</td> <td>2～5</td> <td>6～10</td> <td>11以上</td> </tr> </table>	A	B	C	D	1回	2～5	6～10	11以上	B	<p>題については積極的に取り組む姿がみられたが、家庭学習の未提出者が多かった。</p> <p>回数 9回 ジャーナルや月刊誌から最新のニュースを取り上げ、基礎知識の充実に努める事が出来た。</p> <p>回数 10回 実験プリントに工夫し、興味関心を向上させることができた。</p>							
A	B	C	D																
1回	2～5	6～10	11以上																
	<p>科学に関係する出来事やニュースを新聞から引用し授業に取り入れ、科学に対する興味や関心を高める。 [実施回数で評価する]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>15回以上</td> <td>14～10</td> <td>9～5</td> <td>5未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	15回以上	14～10	9～5	5未満	C									
A	B	C	D																
15回以上	14～10	9～5	5未満																
<p>目的意識をもって観察、実験などを行い科学的探究心を養う。</p>	<p>一人一人が目的を把握した実験、観察を主体的に行えるように指導する。[実験、観察を実施した回数で評価する]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>10回以上</td> <td>9～7</td> <td>6～5</td> <td>5未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	10回以上	9～7	6～5	5未満	A									
A	B	C	D																
10回以上	9～7	6～5	5未満																
保健体育科	<p>課題学習（調査・研究・発表）を取り入れ、保健について興味関心を高める。</p>	<p>課題学習がスムーズに実施できるように各関係機関と連携をとり、資料準備の環境を整える。 [課題学習における生徒授業満足度%]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～70</td> <td>69～40</td> <td>40未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～70	69～40	40未満	A	<ul style="list-style-type: none"> ・課題学習満足度 満足している94% ・新体力テスト実施率 実施率100% ・体育的行事満足度 満足している94% ・体育的行事の内容向上のためにより一層授業と関連付ける必要性がある。学校体育を生涯スポーツにつなげるために自己有用感を高めるために生徒のニーズに合った体育的行事を検討していく必要性がある。 							
A	B	C	D																
90%以上	89～70	69～40	40未満																
	<p>健康を保持増進させるために、自己の体力を知り、それを向上させる実践をする。</p>	<p>新体力テストを実施する。[完全実施率%]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>76%以上</td> <td>75～70</td> <td>69～60</td> <td>69～60</td> </tr> </table> <p>生涯スポーツにつながる授業を展開させる。体育的行事と体育授業をリンクさせて充実させる。 [体育授業の生徒満足度%]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～70</td> <td>69～40</td> <td>40未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	76%以上	75～70	69～60	69～60	A	B	C	D	90%以上	89～70	69～40	40未満	A
A	B	C	D																
76%以上	75～70	69～60	69～60																
A	B	C	D																
90%以上	89～70	69～40	40未満																
芸術	<p>授業を通して、芸術を愛好する</p>	<p>鑑賞と表現の調和のとれた充実を図り、授業における満足</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒授業満足度は、 															

	心情を育て、感性と表現力を高める。	度をあげる。 [授業アンケートの項目1～6におけるA+B（授業に満足している）の割合] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>95%以上</td> <td>94～85</td> <td>84～78</td> <td>77未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	95%以上	94～85	84～78	77未満	A	98.0%であった。 ・器楽では、ギター、キーボード等丁寧に指導し、興味関心を高められた。歌唱には時間をかけたが、人中で表現するには少し時間が必要である。
A	B	C	D									
95%以上	94～85	84～78	77未満									
英語科	英語学習に前向きに取り組む態度を育て、学習の定着を図る。	わかる授業の創造に努める。生徒の理解度を確認しながらできるだけ発話を増やし、授業における満足度を高める。 [授業アンケートの項目1～6におけるA+B（授業に満足している）の割合] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>75%以上</td> <td>74～65</td> <td>64～60</td> <td>60未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	75%以上	74～65	64～60	60未満	A	・生徒授業満足度は、96.8%であった。 ・概ね計画通りに授業を進め、生徒の意欲を喚起しつつ、提出等については厳しく対応している。
A	B	C	D									
75%以上	74～65	64～60	60未満									
家庭科	日常生活に必要な基礎的な知識や技能を身に付け、実際の生活で実践できるようにする。	実習や実験等を効果的に実施し、分かる授業の創造に努めるとともに、生徒の授業に対する満足度を高める。 [授業アンケート項目2、4（板書は丁寧である。授業内容が分かりやすい）におけるA+Bの割合] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>95%以上</td> <td>94～85</td> <td>84～75</td> <td>75未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	95%以上	94～85	84～75	75未満	B	アンケート項目2 A：46.2% B：42.3% C：7.7% D：3.8% アンケート項目4 A：38.5% B：53.8% C：7.7% D：0.0% A+Bの割合 90.1%
A	B	C	D									
95%以上	94～85	84～75	75未満									
情報科	パソコンや情報器具を活用し、いろいろなソフトが活用できる能力の育成に努める。	わかる授業の創造に努める。生徒の理解度を確かめながら、授業における満足度をあげる。 [授業アンケートの項目1～6におけるA+B（授業に満足している）の割合] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>83%以上</td> <td>～75</td> <td>～68</td> <td>67未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	83%以上	～75	～68	67未満	A	・授業アンケートでの満足度は、95.8%だった。 ・板書、声量、授業の構成に工夫と改善に努めさらなる向上を図り、生徒に対する授業を充実
A	B	C	D									
83%以上	～75	～68	67未満									

					させていきたい。								
商業	基礎的な簿記の知識を磨き、財務諸表を作成する技術を身につける。	検定試験合格を目標に設定し、学習意欲を高める。また、小テストや学習プリントを実施、基礎的な知識の積み重ねを図る。 [簿記実務検定受験率]	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>85%以上</td> <td>~75</td> <td>74~65</td> <td>65未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	85%以上	~75	74~65	65未満	D	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生11名、3年生9名が1年間、簿記の学習をしていたが、そのうち実務検定を受験する生徒は3名（15%）の受験率に終わった。 ・ビジネス文書実務検定は受験者が5名中合格者、?名、簿記実務検定は受験者が3名中、合格者、0名（0%）、珠算・電卓実務検定は受験者が10名中合格者は10名（100%）であった。
	A	B	C	D									
85%以上	~75	74~65	65未満										
検定試験に挑む学力を要請する。	ビジネス文書実務検定、情報処理検定、簿記実務検定、珠算・電卓実務検定の指導を強化する。 [検定合格率]	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>85%以上</td> <td>~75</td> <td>74~65</td> <td>65未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	85%以上	~75	74~65	65未満	C		
A	B	C	D										
85%以上	~75	74~65	65未満										
総合的な学習の時間	基礎的学力の定着を学校全体で取り組む。	基礎的な漢字と計算能力を個の能力に応じて伸ばす。4段階評価のABCDの内、AまたはB評価を獲得する生徒の割合を増やすことを目指す。	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>70%以上</td> <td>69~60</td> <td>59~50</td> <td>50未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	70%以上	69~60	59~50	50未満	D	<ul style="list-style-type: none"> ・1年は100%AまたはB評価、2年はA,B評価が6人から7人に増えた。3年はハイレベルの内容に取り組んでいるためほぼ全員がC評価に留まっている。
A	B	C	D										
70%以上	69~60	59~50	50未満										

学校関係者評価委員会による	登下校時や学校祭での生徒の様子等から、落ち着いた雰囲気のある学校であることがわかる。ホームページ等から、薦池小豆の播種、収穫、調理、伊根浦巡り、ブリの解体と調理、長寿苑のボランティア清掃、ヘシコレシピの作成など伊根地域と関わる活動を行っている
---------------	---

る評価	特色ある教育活動を知ることができた。今後も、伊根地域に結びついた特色ある教育活動を通して、多くの尺度で生徒を評価し併せて生徒の自己有用感を高め伸ばして頂きたい。
-----	--

次年度に向けた改善の方向性	学校行事、体験活動、ボランティア活動等を充実させることで生徒の自己有用感を高める。 保護者との連携を図り、生徒理解を深める。併せて、個に応じた指導を強化する。 卒業後の自立支援に向けて、関連専門機関との連携を深める。 校内一致した、授業のユニバーサルデザイン化に取り組む。
---------------	---